

【子どもに本を届ける人のための講座】

「今こそ 子どもたちに昔話を」

講師「こどものとも」元編集長 作田真知子 氏

日時：2025年11月19日（水）10:00

～12:00

【プログラム内容】

- 9:55 司会 開催注意事項等アナウンス
10:00 宇都宮子どもの本連絡会会長 桐生雅美 挨拶
講師：作田真知子氏プロフィール紹介
10:04 会場写真撮影
10:06 作田真知子氏 挨拶
10:08 講演開始 プロジェクター使用
昔話について
月刊誌『子どもの館』について
10:20 昔話が伝えたいこと
① 若者の成長と幸せ
『かえるのおよめさん』
『はちかづきひめ』読み聞かせ
10:52 ②人間を取り巻くものへの恐怖～山姥をめぐって 新しい山姥像
『くわづにょうぼう』『まゆとうりんこ』読み聞かせ
11:22 ③どうやって人は食べ物を手に入れたか 『しろいむすめマニ』読み聞かせ
11:35 昔話の秘密のメッセージ 昔話の持つ力 なぜ今昔話が大切なのか
11:50 質疑応答 海外の昔話における現地を知ることの大切さ 小学生でも喜ぶ昔話とは
12:00 終了

【講座の様子】

作田先生はいつの時代も子どもたちを魅了する昔話について、たくさんの読み聞かせを実践し、分かりやすい言葉で紐解いてくださいました。まず、子どもはなぜ昔話を喜ぶのかについて、むかし～で始まる物語の世界への誘い、主人公の行動と出来事で語られること、登場人物は単純であることや、3回の繰り返しで次への期待感を高めていることなどの説明を『かえるのおよめさん』や『はちかづきひめ』の読み聞かせによって理解を深めていきました。メキシコの昔話『かえるのおよめさん』は日本の昔話『やまなしもぎ』との類似点にも触れ、遠く離れたところでも同じような昔話があること、昔話の不变的なものを感じる妙を再確認出来ました。『はちかづきひめ』では、若者に見えない明日を歩む勇気を与えてくれるものとして、『くわづにょうぼう』では恐れる気持ちの大切さを「輪郭をはっきりさせた物語」という形で子どもたちの元へ伝えていく、それは決して教訓としてではなく、人間らしく歩み、心を耕す昔話の力でもって、子どもの内面に降り積もって宿り、大人になる判断を支えていくようになるための手段の一つとして大変有効であると先生の今まで培ってきた経験を分けていただきました。質疑応答では、昔話のためにその現地へ赴き、その土地の作家に会うこと、その土地の暮らしを語ることの大切さを教えていただきました。スマホの映像や核家族化で、人間同士のぶつかり合いを避ける現代においても、一冊は昔話を、ぬくもりのある人間の声で物語を読んでほしいと切なる願いを会場全体で受け止め、今後の子どもに本を届ける活動に一層まい進したいと気持ちを新たにしました。

【展示リスト】

題	作	絵
かえるのおよめさん	清水たま子	竹田鎮三郎
はちかづきひめ	長谷川摶子 再話	中井智子
くわづにょうぼう	稻田和子 再話	赤羽末吉
まゆとうりんこ	富安陽子	降矢なな
しろいむすめマニ	稻村哲也 再話	アントニオ・ボティロ
やまなしもぎ	平野直 再話	太田大八
3びきのやぎのがらがらどん	瀬田貞二 訳	マーシャ・ブラウン
昔話の深層	河合隼雄	
絵本はともだち	中村征子	